

会 議 録 概 要

会 議 の 名 称	令和7年度第1回ひろさき教育創生市民会議		
開 催 年 月 日	令和7年7月29日（火）		
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時00分 から 午後4時00分 まで		
開 催 場 所	岩木文化センターあそべるホール（弘前市大字賀田一丁目18-4）		
座 長 の 氏 名	国立大学法人弘前大学 教育学部 教授 福島 裕敏		
出 席 者	座長 福島 裕敏 委員 工藤 千華 委員 奥野 武志 委員 山口 祝一 委員 横山 晴彦 委員 福島 龍之 委員 鈴木 勝久	委員 旭澤 友多 委員 石戸谷 恒鋭 委員 岡田 敦史 委員 相馬 隆子 委員 佐藤 信隆 委員 黒木 和実 委員 藤田 俊彦	委員 佐藤 優輝 委員 花田 流久 委員 佐藤 智絵 委員 清宮 絵里子 オブザーバー 佐藤 光子
欠 席 者	委員 古川 浩樹 委員 佐藤 誠 委員 矢田 公夫 委員 福井 深雪	委員 柊澤 睦子 委員 葛西 紘一 委員 井上 裕太 委員 山本 勝規	委員 佐藤 滋子 委員 猪股 豊
事務局職員の 職 氏 名	教 育 長 吉田 健 教 育 部 長 森岡 欽吾 学校教育推進監 福田 真実 教育総務課長 高谷 由美子 学校指導課長 工藤 利彦 学校指導課長補佐 斉藤 雅子 指 導 主 事 太田 奈菜子 指 導 主 事 工藤 敦史 指 導 主 事 建部 拓	指 導 主 事 柳谷 健太 学校整備課長 安田 宏紀 教育センター所長 前田 清幸 指 導 主 事 相馬 武志 生涯学習課長 中川 元伸 中央公民館長 高森 紀之 文化財課長 石岡 博之 高岡の森弘前藩歴史館長補佐 鶴巻 秀樹	
会 議 の 議 題	「持続可能な部活動改革の在り方」について ～課題、検討事項、意識改革について考える～		
会 議 資 料 の 名 称	資料①弘前市の部活動改革（案）本文 資料②弘前市の部活動改革（案）ポンチ絵		
会 議 内 容 （発言者、発言内容、 審議経過、結論等）	1 開会 2 教育長挨拶 3 新任委員紹介 4 議事（グループ討議）		

5 閉会

【内 容】(概要)

1 開会

2 教育長挨拶

3 新任委員紹介（新任委員 6 名を紹介）

4 議事

「持続可能な部活動改革の在り方」について ～課題、検討事項、意識改革について考える～

各委員の視点から、「部活動のクラブ化」に向けた検討事項への意見を各グループで討議し、解決に向けた意見やアイデアを発表する。

(事務局説明)

説明：学校指導課

資料①弘前市の部活動改革（案）本文

資料②弘前市の部活動改革（案）ポンチ絵

○質疑応答

(委員)

- ・部活動の顧問の希望制を導入するということは、現在は部活動の顧問というのは、割り当てられて担当しているということか。
- ・希望制を導入すると、顧問をやらなくてもいい事になるのか。

(事務局)

- ・現状は校長先生が先生方をお願いをして、部活動顧問をやっている状況である。現在の方向性としては、部活動の指導を自身で希望する先生が指導をするという方向で考えている。

(委員)

- ・むつ市は今年度から地域クラブに移行しており、お金もある程度かかることも報道されていた。自治体の規模等で異なる部分もあるが、先行事例などから何か問題点等を把握されていたら教えていただきたい。

(事務局)

- ・活動場所までのバス移動で時間を要し、活動時間が短くなる場合もあると伺っている。活動場所まで行くことが困難な場合はリモートで動画を見ながら活動している状況もあると伺っている。

(委員)

- ・部活動をクラブ化する方向性はやむを得ないと考える。個人的には「地

	<p>域クラブ」「学校クラブ」「学校サークル」の3つのパターンの中で一番理想的なのは、学校クラブが一番無難と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校クラブの場合、指導を希望する先生がいる場合は非常に容易に学校クラブ化できると思われるが、その先生が異動となった場合に活動出来なくなる事も想定される。指導を希望する先生がいる場合でも外部指導員も一緒に配置する事は可能か。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今弘前市では、外部指導者として部活動指導員・部活動アシスタントがおり、年々外部指導者数は増えている。この外部指導者は、学校から教育委員会に推薦し、教育委員会が委嘱している。 <p>我々としてもすべての部活に外部指導員がいた方がいいという考えはあるが、人材の確保は課題の1つであると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を希望する先生がいても、学校から推薦があれば、外部指導者として委嘱していくことを考えている。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では部員数が不足し、連合チームで大会に参加している学校があるが、例えば学校クラブになり、一つの学校単体で既に部員数が確保されている場合でも、強いチームだからといって他校の生徒が集まることも可能になるのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指している方向性としては、部活動をやりたい生徒がやりたい競技を選択して活動できるようにするのが理想である。生徒の希望を拒まず受け入れ、合同チームを作って活動することを目標として考えている。 <p>(座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料中にある、継続して検討しなければならない事項の中に、日課表の変更や時差出勤制度の導入とあるが、わかりにくいものであるため説明してほしい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日課表は時間割のことである。学校は、朝の会から始まり、多い時は6時間目まで授業があり、そして帰りの会が終わって、部活動に入るという日課について、放課後の時間帯に部活動の時間を確保し、先生が勤務時間内で指導できるようにするために、日課表を早めて放課後の時間を確保するもの。 ・時差出勤制度というのは、例えば、教員の勤務時間を過ぎて活動を行うことが見込まれる場合に、1時間超過するのであれば、その1時間
--	--

分を遅れて出勤するというものである。

○グループ討議

座長よりグループ討議の進行手順について説明

○各グループからの報告

(Aグループ)

- ・出された意見は外部人材について、予算について、地域クラブ化する際の問題点の大きく3つに分けられた。
- ・外部人材について、今までの部活動というのは人格形成に重きを置かれてきたが、生徒には外部指導者の人格や技能が関るため、外部人材に対する研修を行い、子どものモチベーション向上や居場所にもなるようにしてほしい。
- ・予算について教育委員会から全面的に出すのかと思っていたが、そうになると持続的な体制にはならないため、市内には小学校から高校・大学まであることから、連携して大きなピラミッドとして考えて、寄付や出資などで予算面でのバックアップ体制を作る、あるいは体育協会的なものでバックアップするなど、予算を潤沢に作っておかないと持続的な構造・機能にはならないと考える。
- ・地域クラブ化の問題点としては、交通手段の問題、優秀なクラブやそうでないクラブとの格差、それこそエリートとしてスポーツ進学したい子や居場所として機能してほしい子をどのように受け入れるのか等の問題があると考ええる。

(Bグループ)

- ・Bグループ内の意見を分類した結果、メリット、お金の公的支援、指導者の問題、検討の余地があるところや疑問点に分けられ、そこから解決につながるアイデアを考えた。
- ・メリットとしては、生徒にとっては学校と家庭以外の人との交流が増えることが挙げられた。
- ・公的支援については、ユニフォーム等備品の管理・保管や、遠征費・食費・宿泊代や引率者は誰になるのか等、そういった部分についてまで検討の必要があるという話になった。
- ・指導者については、指導者を誰が選任するのか、またどのように指導者について登録や認定をするのかというところで疑問が残っている。
- ・アイデアとして、市の職員として外部指導者を雇用することや、指導者からのパワハラ、苦情などに対応する窓口の設置が考えられる。外部指導員のガイドラインの設定や、外部指導委員への研修、指導員認定制度の確立、外部指導員の組織化の他、生徒や保護者が外部指導員に関することを誰に相談するべきかを共通理解できるようにしたい。

- ・その他、希望教員がいない場合はどうなるのか、移動を含めた活動中の子どもたちの安全管理や災害時やけがの対応は誰が行うのかということが話題になった。

(Cグループ)

- ・外部人材の発掘について、教員OBや地域住民や教育学部の大学生の協力を得てはどうかという意見があったが、けが対応等の知識を有していることが必要だという課題が挙げられた。また、他県の事例ではあるが中立コーディネーターを活用してはどうかという意見が出た。
- ・経済的負担については費用負担を軽くすることは重要であるが、安いことが価値のないことだと勘違いしてしまうような事例もあるため、家庭にとって適切な価格となるようバランスが大事である。
- ・送迎の面では、親の仕事や体調、雪の状況に左右されずに、生徒が平等に自分の意志で活動できることが望ましいという考えから、むつ市のように、バスの特別パスを発行するのは非常に大事だと考える。
- ・弘前市で実施しているウィークエンド子どもクラブのように、生け花や日本舞踊など月1、2回の文化活動についてヒロロを拠点にすればどの地域からでも駅までバスに乗って通うことが出来る。

(Dグループ)

- ・指導者について、組織について、保護者の負担について、という3点で意見が出た。
- ・指導者については、専門性とは具体的に何かということ、競技経験があるだけで専門的な技術を生徒の皆さんに伝えることに繋がるのか、専門性の中には教育的な部分として心の育ちや権利の問題などの観点からの専門性が必要不可欠であるという意見があった。
- ・組織については、指導者について保護者や生徒から苦情が上がった際に、苦情の申し立て制度が整備されること、その指導者を選定する権限はどこに属するのかといった点で課題になった。
- ・保護者の負担というのは他のグループと同様に送迎や経費の問題についてであった。
- ・その他に、生徒・保護者の意見や地域でクラブを運営している方の意見を取り入れるために、そういった方々にもオブザーバーとして会議に参加してもらいながら進めることも重要だという意見になった。

(Eグループ)

- ・いろんな意見がもう今までも出ていたが、保護者の理解と協力が必要であるとか、活動費用の増加だとか、強いクラブへの集中、偏りが生じるのではないとか、レギュラーになれない生徒の活動をどういうふうにするか、生涯スポーツにつなげるということや、やりたいと思う生徒が誰でも参加できるクラブが必要であるなど様々な意見が出

た。

- ・大前提として多様性が尊重されることが必要であるという点についてグループの中でも話し合った。
- ・提案としては、いまあるものを生かすという観点では、学校または教育委員会ですでに地域にあるスポーツクラブの中から、保護者へ勧めることができるスポーツクラブを研究し、推奨できる団体として伝えていくという方法もあるのではないかな。
- ・指導者が先生なのか外部指導者なのかという点では様々な用意が必要かもしれないが、試合を目的とするスポーツクラブよりも緩やかにスポーツを始めることができる団体を用意すれば先生方の負担軽減にもなると考える。
- ・保護者や生徒の希望できる選択肢について、学校であれば部活動紹介などによってメニューのように見ることができると思うが、地域クラブなどになった場合でも示していくことが必要である。クラブを何もやらない生徒はどうあるべきかという話題からも、例えばボランティアを行って過ごす選択肢もあると話題になった。職業体験にもなるボランティアもあるので、そういったことも含めて学校側でメニューとして示すことができたらいいいと考える。

【発表で出た意見について（学校指導課長）】

- ・部活動改革については、数年にわたり教育委員会を中心に議論を重ねてきたが、これまでは割と狭い範囲で話し合いが続けられてきたと考える。様々な立場の方々からご意見を伺った中で、視点が広がった、あるいは深まった部分があり、今日頂いたご意見を参考にして進めていきたいと考えている。
- ・会議冒頭で、クラブ化を進めていく形もやむを得ないというご意見があり、少子化の進行でこれまでと同様の部活動を続けるのは困難であることは、皆さんにもご理解いただいていると思っている。部活動改革の動きとは別に、既に少子化に伴う部員数の減少により、以前は県大会の常連であったような種目でも、廃部せざるを得ない学校もある。このような状況にあっても、子どもたちが、生涯にわたってスポーツあるいは文化的活動に親しむ機会を作っていかなければいけないと考えている。
- ・多様性という話題があったように、勉強で活躍できる子、生徒会等で活躍できる子もいれば、部活動で活躍できる子もおり、過去に顧問として子どもの成長を見られるのはいい経験だった。
- ・部活動改革の結果、教員から離れていく部分は生じるだろうけれども、学校としての関わりが無くなる訳ではなく、子どもたちの成長に関わる教員としての責任は当然引き続きある。今日のご意見を参考に引き続き部活動改革を進めていく。

(座長まとめ)

- ・大人の立場からすると自分たちの部活動観や概念を変えていく必要がある。
- ・日本の学校の歴史を見ると、学校指導課長の話にもあったように、部活動は子どもたちに勉強以外でも成長と活躍の場を与えて自信に繋げ、特に中学校が荒れた時代は信頼関係を構築し、学校を建て直す役割としても機能してきた。
- ・現在は昔に戻ることはできない状況であり、小学校では地域移行が完了したことも考えると、新しい可能性の方を見ながらやっていく必要がある。
- ・生涯スポーツの視点を持って、中学生の年齢の子どもたちのスポーツや文化活動の機会をどう保障していくかが必要である。グループ討議の意見にも月1、2回ヒロロを拠点に活動するものがあつたが、スポーツにおいても、月1回はみんなで集まり、あとは各自で、またはオンラインを活用するという方法も考えられる。
- ・今までの部活動は、ほぼ教員の無償労働で支えられてきた。ある新聞の連載では教員の労働状況を調査したものがあり、部活動は負担になっていることの一つの要因であった。部活動改革を進めるにあたり、色々な問題は起こると思うが、私としては生涯スポーツという視点で、小学校・中学校、それから障がいをもった方々も地域との交流や地域スポーツへの参加等も可能になるかもしれないので、今まであったものが無くなるのではなく、学校の枠を超えて色々な人が集まる場になれる可能性を大事にしていけばいいと考える。
- ・今後も必要に応じてこの会議の議題としていただきたい。

5 閉会